

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス東九条西河辺町IV 新築工事	階数	地上7F
建設地	京都市南区東九条西河辺町19番3	構造	RC造
用途地域	工業、準防火、5種20m高度、町並み脊梁型建築物集積、通風干渉回避	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 0.0	評価の実施日	2019年10月4日
敷地面積	922.74 m ²	作成者	増倉稔明
建築面積	401.62 m ²	確認日	2019年10月7日
延床面積	2,051.60 m ²	確認者	藤原武士



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1</p>		
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0</p>		

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー性に優れた住環境。 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に無し。 	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 内装材には全てF☆☆☆☆製品の使用。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット100mbiti以上環境有り。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に無し。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備を設置。 LED照明使用。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域産木材使用。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 光害の抑制に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される